

Iwate Prefectural Hanamaki Minami Senior High School

岩手県立花巻南高等学校

同窓会報

2012

29



●発行 岩手県立花巻南高等学校同窓会
 事務局 〒025-0053
 岩手県花巻市中北万丁目288番1
 TEL (0198) 23-4236
 FAX (0198) 23-4365
 URL: <http://www2.iwate-ed.jp/hks-h/>
 印刷 和定1印刷

その年の「百周年」を創造し、花巻南高同窓会の独創性を遺憾なく発揮し祝賀会は無事終了し、安堵致しました。これぞ百歳の「集大成」と母校愛溢れる同窓生の皆さん情熱のたまものだと改めて感謝申し上げます。

数年前から準備を始めた書写真も反古になったり、個人情報保護法ができたりと社会情勢の変化の対応等難題のみ多く、緊張の連続でした。その試練に時には挫折感を味わい、時には仲間のがんばりの声援に支えられ一縷の望みが湧いたりと思考をくりかえした日々でした。

東日本大震災はじめ困難の多い年で、軒余曲折の中で推し進めた母校の創立百年の記念事業に、終止符が打たれようとしていました。



ご挨拶

―歴史百年むが母校―

同窓会長

瓜生 祐子

あのすばらしい喜びを共有した「祝賀会」の分野を担当したチーム同窓の意気込みの果敢な行動は異口同音に称讃されました。楽しかった十月一日の記念日は多くのご来賓の方々も花を添えて下さりました。総勢六百五拾名の「出席者」もどもあの感喜の様子はいつまでも心に焼き付くことでしょう。

その記念事業の内容のうち同窓会が寄与した概要についてお知らせします。

- 一、同窓生名簿作成と販売
- 一、「祝賀会」の書画他
- 一、「校旗」の新調と贈呈
- ※同窓生有志に加えて三名

の方に支頂いたたさまし

- 前校長 菊池 豊氏
- 協賛会実行委員長 佐藤忠明氏
- 協賛会副会長 山田裕可氏
- 花南讃歌作曲者 前川和男氏
- 花南讃歌作詞者 杉村俊博氏
- 祝詞の書(個人) 藤枝 剛氏
- (時中の書) 根本ヒデ子氏
- (絵画) (油絵四点) 池田洋子氏

- 一、協賛金 七拾七万円也
 - 以上
- 以上

迎春

昨年より刻も白月年が外へ
 今年こそは、あつたつと、おめでたい

平成24年 正月

岩手県立花巻南高等学校

同窓会長 瓜生 祐子



皆様方は同窓会活動について、すでに周知されていることでは、すでにご改めてご同窓第二集をご理解いただいたかと思えます。

〔目的〕 本会は次の事項を目的とする。

- (1) 会員相互の親睦をはかる。
- (2) 母校の発展充実のため必要な援助協力を行う。

このたびの催しに参加した人々は、十分に達成感を味わうことが出来たと思えます。が残念なことに若い人々が少なかったわけですが、世間からも大評価をうけたことを継続していくためにぜひ、組織の強化が課題です。少子化の現代、高校の統合等の時代に突入するかも知れませんが、だから今から同窓生の「絆」を深めて母校の存続性等活動を展開していきましよう。

どうか年に一度の総会には出席し旧交を温めつつ、声高らかに「校旗」や「花南讃歌」を取つて下さい。

終わりになりましたが、各位のますますのご健勝と母校の更なるご発展を祈念し、挨拶を結びます。



「新しき百年に向かって」

校長 吉田 文夫

日頃から本校教育活動に寄せられますご理解とご協力を心から感謝を申し上げます。

明治四十四年に岩手県立

花巻高等女学校として創立された本校も、幾多の変遷を経ながらも、百年の時を重ねてまいりました。高女の誇りを受け継ぎ、生徒達は、人文科学、自然科学、スポーツ健康科学、国際科学の四つの学系に分かれて学習しています。また、生徒達の素直さ、まじめさ、ひたむきさが、活発な部活動や国際交流、ボランティア活動で大きな成果を上げています。

同窓生の皆さまの熱き思いが実り、前日の雨が嘘のような澄み渡る秋空のもと、去る十月一日に創立百周年記念式典が花巻市文化会館において挙行されました。本当に素晴らしい記念

式典、そして祝賀会でした。また、皆様から心温かい沢山のご寄付をいただき、昨年度から今年にかけて、創立百周年の記念事業として、通門門や人工芝運動場も完成し、活用させていただきます。

また、そのためにも、同窓生の皆さまの今までも同様の支援助が必要です。今後とも力強く支えていただきますようお願いいたします。

さて、今年度は部活動でも百周年記念事業による活動振興のおかげもあり、大きな成果がありました。高校総体では、三つの部が団体優勝、一つの部が準優勝となり、インターハイに団体で四部が、個人で五部が出場しました。また、文化祭でも全国ドイツ語スピーチコンテストの三位を始め、他に二部が全国高校文祭に参加しています。新入戦でも団体優勝一部、準優勝一部、三位が二部と健闘し、個人でも多くの上位入賞を果たしています。文化部も多くの入賞を果たしています。

国際交流については、震災と原発事故の影響で、百周年記念国際フォーラムは中止となりましたが、二月

に韓国からの受入、三月に韓国とドイツへの派遣が予定されています。進路においても、就職では厳しい求人状況ではありますが、あと数名というところまで来ました。推薦による進学も順調で、国公立大学の推薦合格も昨年度を上回り、韓国私大の合格も果たしています。

ところで、ご存じのとおり、旧校舎跡にある柳は、危うく切り倒されるところを、風生同窓会長がたまたま通りかかり、無事に残される事となり、今後も市で延命について尽力いただく事になって居ます。しかし、状態はかなり厳しい事も事実で、健全なうちに対策を考えなければならぬと思っております。

最後になりますが、日本一の花巻南高等学校同窓会です。また、ご発起と会員の皆さまのご健勝を心よりご祈念申し上げます。

がとうございました。これから次の百年に向かって、生徒一人一人がさらに輝きを増していただけるように、伝統を受け継ぎながら、新しい歴史を創る第一歩を踏み出して行く所存で

中止となりましたが、二月

に韓国からの受入、三月に韓国とドイツへの派遣が予定されています。

進路においても、就職では厳しい求人状況ではありますが、あと数名というところまで来ました。

推薦による進学も順調で、国公立大学の推薦合格も昨年度を上回り、韓国私大の合格も果たしています。

ところで、ご存じのとおり、旧校舎跡にある柳は、危うく切り倒されるところを、風生同窓会長がたまたま通りかかり、無事に残される事となり、今後も市で延命について尽力いただく事になって居ます。



新校舎創立式



根木ヒデ子氏
(南高8回生)
書簡



恩師寄稿

3×3の関わり

眞下 徹



多くの職員や保護者の方々
に支えられての卒業であり、
迷惑をおかけした男子生徒
のほとんどが今でも仕事を
辞めずに働いていると聞き、
うれしく思っています。

次は男子が五人しかいない
人文科学系(二組)の担
任でしたが、ここでも感動
させてもらいました。クラ
スマッチの長編読みでは女
子だけで最多記録を樹立し、
総合得点でもスポーツ健康
科学学系に十点差の準優勝。
夏の高校野球県大会の前
には、クラス全員からエー
ルをもらい、涙がこぼれま
した。この日、他のクラス
でも野球部員に対するエー
ルが響き、その声援に応え
るかのように第四回戦を破
って野球部創立初の四回戦
進出を成し遂げました。卒
業式では一番最初の入場で
感動して入場したことや、
生協の名前を間違えたこと
もよく覚えています。



せんが、親友会に乱入？し
てきた卒業生もまた愛しく
思われました。
野球部についてもお話し
させて下さい。男女共学に
なった創立八十四年(平成
三年)に創部、平成四年の
秋季県大会でベスト4に進
出しています。私が担任し
た母は、二三年生合わせて
九人で、「目標は？」「甲子
園です。」「じゃあ、まず部
室の掃除からだ。」と指示し
たのを覚えています。三人
の二年生がチームを引っ張
って平成四年以来の県の県
大会に出場し、同年の花巻
大会は七年連続で県大会出
場を果たすまでの、上位進
出はなりませんでしたが、夏
言っての三年間でした。人
文・自然科学系が四クラ
スから三クラスに減った年
で、数学・英語において同
校が今後の鍵になると見
ていました。一点ビハイソ
ンでの決勝に二死三塁から仕
掛けたセーフティーバント
が見事に決まって勝利を取
り、春四強の蒼蒼商業戦で
は、全校応援の花巻球場で

創立百周年、おめでとろ
ございます。私は伝統ある
花巻南高校に平成十一年四
月から九年間世話になり、
同窓会やPTAを始めたく
さんの方々に育てて頂きま
した。三年間の持ち上がり
を3サイズクールさせて頂いた、
3×3の関わりについて語
らせて頂きます。

平成十一年からの三年間
の話を終わると、全員が起
立し、かなり迷惑をかけた
の責任をさせて頂きました。
自ら希望しての体育コース
担任でしたが、やんちゃな
生協と格闘する毎日でした。
更に、平成十一年は若手イ
ンターハイの年でもあり、多
くの先生方が学校を空ける
ことが多くて、なかなか学
校そのものが落ち着きませ
んでした。それで、早退し、
寝坊合せて泣いてしまっ
た。四十一名が三千七



平成十四年からの三年間
は、総合選択制が導入され
て初めての学年を担当させ
て頂きました。教員側も初
めてのことで総合学科との
違いを認識するのに時間か
かりました。他学系の授業
を選択できるのとこのこと
で、実際にはほとんど
できませんでしたが、二年



平成十七年からの三年間
は学年主任をさせて頂きま
した。一年で投げ出すなら
出はなりませんので、上位進
出はなりませんでしたが、夏
言っての三年間でした。人
文・自然科学系が四クラ
スから三クラスに減った年
で、数学・英語において同
校が今後の鍵になると見
ていました。一点ビハイソ
ンでの決勝に二死三塁から仕
掛けたセーフティーバント
が見事に決まって勝利を取
り、春四強の蒼蒼商業戦で
は、全校応援の花巻球場で

平成十一年からの三年間
の話を終わると、全員が起
立し、かなり迷惑をかけた
の責任をさせて頂きました。
自ら希望しての体育コース
担任でしたが、やんちゃな
生協と格闘する毎日でした。
更に、平成十一年は若手イ
ンターハイの年でもあり、多
くの先生方が学校を空ける
ことが多くて、なかなか学
校そのものが落ち着きませ
んでした。それで、早退し、
寝坊合せて泣いてしまっ
た。四十一名が三千七

平成十四年からの三年間
は、総合選択制が導入され
て初めての学年を担当させ
て頂きました。教員側も初
めてのことで総合学科との
違いを認識するのに時間か
かりました。他学系の授業
を選択できるのとこのこと
で、実際にはほとんど
できませんでしたが、二年



平成十七年からの三年間
は学年主任をさせて頂きま
した。一年で投げ出すなら
出はなりませんので、上位進
出はなりませんでしたが、夏
言っての三年間でした。人
文・自然科学系が四クラ
スから三クラスに減った年
で、数学・英語において同
校が今後の鍵になると見
ていました。一点ビハイソ
ンでの決勝に二死三塁から仕
掛けたセーフティーバント
が見事に決まって勝利を取
り、春四強の蒼蒼商業戦で
は、全校応援の花巻球場で



平成十四年からの三年間
は、総合選択制が導入され
て初めての学年を担当させ
て頂きました。教員側も初
めてのことで総合学科との
違いを認識するのに時間か
かりました。他学系の授業
を選択できるのとこのこと
で、実際にはほとんど
できませんでしたが、二年



源転サヨナラを祈りました。運動能力の高い生徒ばかりではないものの、はくついできてくれたと感謝していますし、父母会の皆さんにも大変お世話になりました。ここ数年はOJ会が発足したり、大会では夏のシード校になったり、センバツの二十一世紀枠の推薦校に選出されるなど上位進出が相次ぎ、「甲子園」も夢ではないと期待しています。

終わりに、創立百周年記念式典や祝賀会の素晴らしい運営と盛り上がりを見届け、花巻南高校と花巻南高校同窓会が益々発展していくことを願いました。今は一花巻市民としてではありますが、これからもずっと花巻南高校を応援していきます。



役員応ふり

花巻南同窓会と私
相澤 セツ
〔南高3回生〕

十月一日岩手県立花巻南高等学校創立一〇〇周年記念祝賀会に参加しました。

次第に依り第一部が終わり第二部は会場を移動し、学年毎にテーブルが用意されて、それぞれの名前

の席に着きました。開会式に始まり、祝賀、祝宴となり食事を楽しみながら充実したひとときが過ぎました。最後は万歳三唱と閉会の言葉で会が終わりました。三回生全員で隣のホテルに移動しお茶を頂きながら平成十八年古橋の祝い以来の再会でした。六年たっても皆様少しも愛りなく、それぞれ

の楽しみや近況を語り合いい記念写真も撮って頂きました。

今回の記念式典、記念講演並びに祝賀会に携わった方々に感謝申し上げます。

た、あれからも五十年もたつたのかと月日の流れの早さに改めて驚く、当時私は文芸部の一員で、五十年記念の文化祭には「宮澤賢治」に焦点を当てようといろいろ奔走した思い出がある。学校から当時貴重な録音機を借り、宮澤清六さんと、あの黒い機械を、どうも思い出が重たい機械を、ヨイショヨイショと遊び清六さん宅を訪ねました。お伺いした内容を書き出し、教室中に張り出し、私達なりに賢治の思い出を聞こうとした。思い出しはかり五十年の月日にかすみの中に薄れてしまっている。

「早く川の流れば絶えずして、然もどこの水にあらざり」最前も口をついて出てくる「方丈記」の一節だ。数ヶ月後迄あったはずの建物が消え、シャッターが下りたままの店も多くなくなり、めまぐるしく移り変わる風景にとまどいすら感じる昨今だ。汽車道を走っていると、私には駅から坂を下り、学校までの通学は校門をくぐらず神社のある裏口の方が

ありがとうございました。

五十年前の私
山鼻 昭子
〔南高8回生〕

「創立百周年か」そう聞きながら、百周年記念の同窓会名簿に目を通していた。山鼻姓は私連三二人だけだ。と言っ、なるほど、うんだと、三つ、なるほど、南高八回生の私、十六回生の私の妹、四十二回生の二女、年代の違いで校舎が違っている。二十三年に古橋を祝った私は当然女子校時代のからの木道の校舎、階段の手摺などは黒光りしていたし、寄附舎もあった。松田順子先生に教わり音楽部でピアノ伴奏をしていた妹は、建て替えられた新校舎で明るくのびのびとした高校生活を送っていた。男、女共学になり、新花巻南高は人気があり競争率も高く、合格の通知に涙を流した暇なかったが、小柄な体で三年間バスケットクラブで良く走り廻っていた。

私が三年生の時は、花巻南創立五十年記念の年だった。私には駅から坂を下り、学校までの通学は校門をくぐらず神社のある裏口の方が

ら学校していた。母校には時々「たい焼きさん」に寄る楽しみのある旅道には、思ひ出いっぱい詰まっています。試験が終わると映画を観る許可が下り、当時「太陽がいっぱい」等の洋画の世界にどっぷり漬かっていた、あの頃の思い出の場所は「夢の扉」である。

しかし私は今、花城にある南高跡地に存在する「まなび学園」に新しい流れを感じている。毎年九月の「まなび学園祭」には、当館を利用して多くのサークルの作品が所狭しと飾られ、舞台発表もあり三日間の開催中には多くの市民の方々が訪れてきている。私が展示当番をしているある時年配の男性が「この建物、この様な形で残っていて良かったなあ」と話しかけてこられた。生熟学習の場として生まれ変わった南高の元校舎が、幼児を給め、中高生の集いの場になり、高齢者にやる気元気を与えてイキイキと残っている。この地に愛着を感じている私にとって、とてもうれし

い事だ。たとえ歴史は流れて行くことも、これからは花巻南高の存在が明確に生きて行つて欲しいと思う。

久しぶりには
会えた友・恩師
山田孔子
(南高23期生)

平成21年8月22日久しぶりのクラス会を開催しました。参加者は、生徒8人、先生と、9名の出席でした。38年前の3年5組の教室にタイムスリップし、新しい時間を過ごしました。来年再開を約束し、別れました。

いたできた9月に同窓会を開催致しました。クラス担任、クラブの顧問、教科担任の先生にも参りいただきました素晴らしい時間をもちました。高校生の頃は、先生と生徒でしたが、会場では人生を語る仲間と成っていました。



旧校舎 (左が女子校時代の北南、右が高女時代)

高校を出て38年間それぞれ的人生を歩んできた友、先生、昨日まで会っていたように話が弾みあつたという間に時間が経ちました。青春の「ページ」を飾つた仲間だつたからでしょうか。平成22年が明けて仲間と大々的な夢を持ち入部した屈き、徳彦先生がおじけになりました。事をしりました。驚きと悲しみでいっぱいでした。1来年も連絡を待っているよ。」と手を振ら、い離れた先生、再びお会いできると思つていたので、とでも残念です。

武田鉄矢さんが、先日テレビでこんな事を若者に話していました。「自分を誇り、ましてくれるのは、十代の自分である。」



旧校舎 (左が女子校時代の北南、右が高女時代)

50年生きてきた私もその通り、いい言葉だともいいました。高校時代の友達、クラブの先輩、先生、沢山の方と出会うことが出来た時期でした。卓球が好きで、オリンピックに出たいと大きな夢を持ち入部したのですが、現実はその甘くはない。と毎日の練習をクリアするだけで一杯で、でもあの日の汗と涙は、私の宝です。そんな私を知っていてくれるのは、高校時代の彼女、そして先生方なんですよ。同窓会で30年以上も会っていないのに話が弾む訳です。

義務教育ではない自分で選んで入つた学校です。自分の意志で歩み出した道だったんです。だから皆、高校生活は、沢山の経験をし、沢山の思い出を持つているのでしょう。先生方も沢山の生徒との思い出も大切にしてくださいませ。

ご案内
平成24年度同窓会
日時 平成24年7月8日(日)
午前10時20分より
会場 花巻温泉・ホテル千秋園
総会終了後、懇親会を行います。
会費 5,000円
是非お誘い合わせの上ご参加下さい。



創立100周年記念式典

平成23年10月1日(土)9:30— 花巻市文化会館



作曲者 杉村俊博先生によるピアノ伴奏



同窓生20名生徒98名の大会唱団によるオープニング「花南讃歌」



創立100周年記念事業協賛会
会長 大石真雄(花巻市長)



顧問の姉妹校 安藝外国語高等学校

記念講演会

「文学の力」

東京外国語大学学長

亀山郁夫先生



生協会長あいさつ



司会



式典の最後は
応援団長の指揮による校歌



創立100周年記念祝賀会

平成23年10月1日(土)13:00— ホテル千秋園



百周年祝賀会について

高橋光子(南高80回生)

花巻南高等学校が百周年を迎える事が同級生同志で喜ぶ事になり始めた時は、まだまだ先の事だと思いがちでしたが、21年2月に「百周年記念事業協賛会」設立総会に出席し、さらに第一回理事会、第二回理事会と出席しながら準備をすすめていきました。

まず、第六回同級生で住所がわかっている人全員に往復ハガキを出し、出欠を取り、会費を届込んでもらいました。幸い同級生役員が石川映代さんが同級生だったのでいろいろ相談しながら学級役員と5人で会議をくり返しました。同窓会事務局とのやりとりを度々行い、参加者の最終確認をやりと終え、当日を迎えました。

オープニングコーラスで祝賀会の幕が上がりました。私もコーラスに出ていた。高舞台から一瞬で全体が

校は不滅です」と、はつきり事をあげられて声高らかに言われました。これもハイライトのひとつでした。



「楽しかった」「楽しかった」とその後同級生の方と会うたびに口々におっしゃるのは、久しぶりと一緒に過ごした昼日午前までの時間、高校生時代と比べて、今の日常と違う青春時代の自分で過ごせた喜びだったような気がしました。

いよいよ終わりに近づくと花巻市長さんや来賓、同窓会役員も舞台上がって歌や踊りと万歳三唱で締めくくりました。

誠に、創立百年祭にふさわしい賑わいと荘厳さの内に終了致しました。

さて、私達六回生は70才の節目の年でしたので、引き続き泊り掛けで同級会を行いました。

記念撮影に続き同級58人での同級会が始まりました。先ず、全員で乾杯、次に校歌を全員で歌いました。食事の途中からは百年讃歌をスタートにカラオケ



百周年での「おどり」から

中島孝雄子(南高10回生)

平成二十四年新しい年の幕が開き花南高等学校創立一〇一年を迎えられ多い年でありますように祈念いたします。

昨年の暮に母校の創立一〇〇周年祝賀会での「おどり」部門の原稿依頼がありました。さて困った思い取り込んだ様子を書いてみようと思いました。

風生会長より祝舞のお話をいただいたのは二十二年の同窓会後でした。余興ではにぎやかに華やかに沢山の人数でおどってほしいと、曲選びから始め母校の節目である一〇〇周年に居あわせ盛り合いおどりを志している者としておどれる幸せを皆で感謝して取り組もうと……

五月に入って役員会に声をかけられ一〇〇周年の出席者が決定していましたのでおどりの心算がある人を選出その方々に連絡をとって練習合わせ。六月からのお

かい拍手で盛り上げていた。だいたこと言うまでもありません。皆があつという間に終わったと興奮冷めやらぬ達成感に笑顔で一ぱい、

汗をかき特訓でした。その間にあれからも「おどり」仲間には続いております。皆様には大変お世話になりました。

「おけいこ」の際に風生会長、執行部の方々お茶の差入れと暖かい応援のことばありがとうございました。

また二周年から二十周年の十八人、年齢も流石もさ



「花南讃歌」合唱に参加して

佐藤一枝(南高14回生)

前川和男作詞・杉村俊博作曲「花南讃歌」という新しい楽曲が届けられました。創立百周年を記念しての合唱曲で、風立花南高等学校創立百周年を記念しての合唱曲で、思い出となりまして、式典と学校時代を、二番は南高女子高時代を、そして三番は男女共学時代とそれぞれ時代背景を彷彿とさせる歌詞が記され、親しみやすいメロディで構成されておりました。

真夏の音楽室には、桐田法子先生の指揮、二十二回の伊藤まさ子さんのピアノ伴奏のもとに同窓会の皆さんが二〇三〇名ほどそろって在校生の音楽部の皆さんが顔をそろえ、第一回目の練習が始まりました。

広い音域の曲にめげず、桐田先生の指導にて、四回の練習で「讃歌」を歌い上げるまでになりました。八月二十六日の文化祭、創立百周年記念式典のオープニング演奏、同窓会祝賀

会と三度の演奏機会に恵まれました。なかでも作曲者の杉村先生より、直接指導をいただき、先生のお人柄にも触れることができ、良い思い出となりまして、式典と学校時代を、二番は南高女子高時代を、そして三番は男女共学時代とそれぞれ時代背景を彷彿とさせる歌詞が記され、親しみやすいメロディで構成されておりました。



感謝状
杉村俊博様
この度は、本校創立百周年記念式典のオープニング演奏、同窓会祝賀会と三度の演奏機会に恵まれました。なかでも作曲者の杉村先生より、直接指導をいただき、先生のお人柄にも触れることができ、良い思い出となりまして、式典と学校時代を、二番は南高女子高時代を、そして三番は男女共学時代とそれぞれ時代背景を彷彿とさせる歌詞が記され、親しみやすいメロディで構成されておりました。

佐藤一枝(南高14回生)

創立100周年記念事業

通用門新設



記念植樹・記念碑



人工芝運動場竣工式



応援団リーダー研修



指導者：早稲田大学応援団
・チアリーダー

招待試合



ハンドボール部
秋田県立函根高校



ソフトテニス部
札幌滝谷学園高校



剣道部
東京義塾高校



野球部
目黒山形高校



応援団

支部だより

東京支部

副支部長 岩切悦子
(南高16期生)

平成23年3月11日、私達東北人にとって、日本中の人人々、世界の中の人々にとって、忘れてくても忘れられない日となってしまいました。どんな言葉も空しい気がしますが……

東日本大震災の犠牲性となられた皆様のご冥福を心からお祈り申し上げます。そして、今なお、その苦しみを負いながら、懸命に生活をされている、すべての方々に、お見舞いを申し上げますと共に、心からの御礼をささげると同時に、祈りますようにと祈らずにはいられません。

悲しい出来事が起きた日の一か月後の4月10日(日)私達東京支部の総会がおこなわれました。東京の桜は東北の悲しみを癒やすように、はらはらと散り散り



「故郷の四季」メドレー
「川の流れるように」
振りクエストによる即興演奏

「故郷の四季」メドレー
「川の流れるように」
振りクエストによる即興演奏

「故郷の四季」メドレー
「川の流れるように」
振りクエストによる即興演奏

育空が広がっていました。東京上野公園の中に有る神田精養軒での開催でした。あまりの地震の被害の大きさと、友人、知人、親戚の被災に心痛む人も多く、この総会に出席するものも気が進まず、まして、おしいものをお願いいただき、久しぶりの同窓生で美しいひとときを過ごすのは……被災した方達を思うと、やりきれない調べで、つづみこんでくださいました。

演劇の思いを込めてベルの演奏「荒城の月」(さくらさくら)です。
第23回生 石井 光代さん
伊藤 秀子さん
大塚 直理さん
本間久美子さん
江端 祐子さん
田田 育子さん
また、会場にいる私達の心を温めるように、芸大アンスンブルのお二人が優しい調べで、つづみこんでくださいました。

さびしい限りではありませんが、会場の皆さんの一致した意見で、この震災で揺さぶられた自分の心を改めて吐き出そうということになりました。

その際に話し合った事、
①本校の百周年記念式典、祝賀会に積極的に参加して盛り上げよう。
②支部の総会により多くの会員の参加を得る為、学年連絡員との交流を深めつつ北上在住の同窓生の輪を広げよう。
③懇親会では、前支部長の

祝賀や、会員の詩吟、合戦などでにぎやかに交流を深めた。
そして三月の震災の後、四月に本校の臨時理事会があり、その折に、東日本大震災への義援金募金の話があり、支部として五月末迄にまとめた分を同窓会に送金し、被災地の復興を祈った。

北上支部

支部長 八重樫勲子
(南高2期生)

北上支部の総会は隔年の開催が恒例となっており、二十三年度は、支部として特別な会は持ちませんでした。前回の総会時の反省と関係をかねて二十三年の一月に役員の新年会を開きました。

その際に話し合った事、
①本校の百周年記念式典、祝賀会に積極的に参加して盛り上げよう。
②支部の総会により多くの会員の参加を得る為、学年連絡員との交流を深めつつ北上在住の同窓生の輪を広げよう。
③懇親会では、前支部長の

祝賀や、会員の詩吟、合戦などでにぎやかに交流を深めた。
そして三月の震災の後、四月に本校の臨時理事会があり、その折に、東日本大震災への義援金募金の話があり、支部として五月末迄にまとめた分を同窓会に送金し、被災地の復興を祈った。

祝賀や、会員の詩吟、合戦などでにぎやかに交流を深めた。
そして三月の震災の後、四月に本校の臨時理事会があり、その折に、東日本大震災への義援金募金の話があり、支部として五月末迄にまとめた分を同窓会に送金し、被災地の復興を祈った。

祝賀や、会員の詩吟、合戦などでにぎやかに交流を深めた。
そして三月の震災の後、四月に本校の臨時理事会があり、その折に、東日本大震災への義援金募金の話があり、支部として五月末迄にまとめた分を同窓会に送金し、被災地の復興を祈った。

祝賀や、会員の詩吟、合戦などでにぎやかに交流を深めた。
そして三月の震災の後、四月に本校の臨時理事会があり、その折に、東日本大震災への義援金募金の話があり、支部として五月末迄にまとめた分を同窓会に送金し、被災地の復興を祈った。

目下の北上支部の悩みは近年の総会に参加者が固定

化されて、同生が下るにつれて参加者が少なく、又前回のように入らぬような行事と重なる総合参加が困難となり七百余名の同生生が在任していても三、四十名しか参加できない恐れがある。何となく活性化して、その輪を広げたい。

又、総合のあとに講演会を開いているが、どのような内容がいいのか、講師選別に頭をなやませている。

今回は楽しい内容もいろいろ、という事で「落語」をという意見もあつたが、費用の面で無理という事で新たな講師を考慮中である。

十月の百周年記念祝賀会の折、現校長先生に声をかけて頂き、北上市部の特徴は、定時制同生が積極的に参加されており、全定時制のお話をいただき、うれしいことでした。

北上市部の皆さん、今年六月十日(日)の総会には、高女時代の方々の貴重なお話をうかがったり、本校より同窓会役員や先生方よ

り、現在の花巻生徒の活動状況などもお伺いすることが出来ますし、何よりも同じ校舎、校風の中で学んだ同窓にお逢ひして出会いを楽しみます様に、たくさんのご参加を心からお願いしてあります。



石鳥谷支部

副支部長 高橋みや

(南高14回生)

なつかしかったあの頃、この度創立100周年記念式典及び祝賀会に参加することができましたことは、関係者の皆様のご厚力の賜と深く敬意と感謝を表し

たいと思います。ありがとうございます。石鳥谷からは、支部長の菊崎光子様をはじめ多くの方々の参加がございました。花巻温泉での祝賀会には、女子生気分には浸り難い感じがこみ上げ肩を寄せ寄せたり、手を握ったり、楽しいひと時を過ごさせていただきました。

さて、私は昭和40年の入学でしたので、古い校舎で、大きな柳のところに正門がありましたが裏からも裏の裏に登る道路がありました。汽車道の私は、もっとばらこを利用したものでした。また、冬の期間だけ寮を利用した私は先輩と一緒にの部屋で炬燵を囲みいろいろなことを教わりました。

「今晩、誰先生の泊りなの」といろいろ聞かされたものでした。寮のおばさんの作るハヤシライスがおいしく、たごきを思い出します。あの時の先輩はお元気だろうかと推察いたしますがもう一度お会いしたいものと考え

ております。

前まつたわけですが、下の民家で大火発生、急いで大きな風呂敷にいろいろな物を詰め避難しました。大火し、いざ寝物を元にもどそうとしたときにあまにも重くして運べなかつたこと、授業中に夕二運動もありました(臨時二高でも同じことがあったと記憶しています)。

船橋が好きじゃない私はそんなことばかり覚えております。今になって、一船は、やるときは一生命運でも思っております。

昨年は、想像もしていなかったことが起こり、被害に会われた方々に対しまして心からお見舞いを申しあげると同時に早い復元がでありますよう心から念じております。

今年、石鳥谷支部総会がありますので、沢山の参加者がありますよう期待しております。

今後の母校の益々の発展をお祈りいたします。

盛岡支部

副支部長 松尾洋子

(南高6回生)

平成二十三年年度盛岡支部総会及び懇親会は、十月三十日(日)に、「サンセーブル盛岡」を会場にして開催されました。

三回の理事会を経て総会当日を迎えました。今年、高校百周年の記念行事

があり、盛岡支部からもたくさんの会員が参加したのですが、支部の方へは参加者が少ないのではないかと心配したのですが、ご来賓の五名の方々を含め、約百名もの参加がありました。

学校側から学校長の吉田文夫先生、事務局長の佐藤陽子先生、同窓会からは長崎の瓜生梧子様、副会長の小瀬川陽子様、幹事の石川映代様をお招きしました。

総会のご挨拶では、校長先生から、生徒達はハンドボールの女子の活躍等、クラブで一生懸命活動をしていくこと、生徒達の式典への対応、清掃の良さなどをほめられたこと、各国の駐

日大使に会う機会に恵まれたときも、生徒達が英語で堂々と対応し、外務省や知事にもお話をいただいたことなどを話してくださいました。後輩達のすばらしさをお聞きし、私たちもうれしく、誇らしい気持ちになりました。また、十月の放射能測定結果も安全な範囲内という事で安心しました。

総会では、参加者は各回生ごとに紹介された後、事業や決算についての報告がなされ、承認されました。

総会に引き続き、十三回生の担当で懇親会が盛められました。

同窓会長の瓜生様からは、百周年記念行事には六百五十名の参加者があり、大成功だったこと、また集まった資金の中から、東日本大震災で被災した高田高校に義捐金を差し上げたというお話をありがとうございました。支部としても席上で募った募金八万三千六百六十円を、それに加えていた

杯の音頭による乾杯後、おしい食事を楽しんだ皆さんの会話も弾み、心地よい笑い声がそここに響いていました。

今回のメインは、当番回

生が苦勞して準備してくれた創立百周年記念ビデオの視聴でした。その後、恒例の八国生吉田恵子さんの指導による軽体操による体をほぐし、滝沢村からおよびした高屋様ご夫妻の美しい演奏に耳を傾け、またそのリードで、皆で懐かしい歌を歌いました。続いて高校創立百周年記念として作られた「花南讃歌」が有志によって披露されました。恒例の当番回生の余興の歌で、会はずまず盛り上がり

りました。最大の山場は参加者全員の「盛岡音頭」の踊りでした。大きな輪になつての踊りは、同窓生としての絆を一層強くしたように感じました。最後は校歌を七国生の中村ウメさんの伴奏で声高らかに歌い上げました。

懇親会の当番十六名の方々の企画・運営は、記念

すべき高校百周年の支那館に相応しい内容で充実した会になりました。来年の当番にバトンを渡し、再開を約してお別れをしました。



東和支部

小田島才子

(南高10回生)

東和支部での会報執筆は持ち回りで執筆する事になっていて、とうとう会計監査の私にまで回って来ました。

支部に於いては隔年の総

会です。今年も総会はなべく支部長は百周年記念事業の本部役員として積極的に活躍してあります。

本理事会で決定したことは支部役員にも流され、支部では、なるべくたくさんの方に参加してもらいたい。賞状パスをチャーターし、ある程度の必要経費を確保する等百周年に向けての取り組がなされました。

しかし百周年ともなれば

会員数も多く、出席者の人数も制限され、思ったよりは支部としての参加者は少なくなりました。それは各卒業年次での出席者数と

りまとめが優先されたこと

もあると思います。

いよいよ平成二十三年十一月一日記念すべき百周年記念式典、祝賀会がやって参りました。

私は祝賀会と懇会に参加

させていただきました。

大石市長はじめ沢山の来賓の御臨席のもと六百名を超える会員が勢揃いし花南讃歌の合唱で幕が上がりました。壇裏の隅は舞台のすぐ前から入山、沢山の人の

来賓の方々からはたくさんのご祝辞をいただき、母の日の足跡をたどったり、偉大な清生軍や後輩の文武両道の活躍を通じ、花南に在籍できたこと、そして今後絶対無いであろうこの時、この祝賀会に出席できたこと、本当に嬉しい感謝量のものがありました。

余興の方も多彩で、歌や

踊り、ダンス等、次々と披露され、まばたきもせず、息をのんで見入ってしまう。

平成十八年から五年間に

渡る準備期間を経て、こ

んなご祝辞をいただき、母の日の足跡をたどったり、偉大な清生軍や後輩の文武両道の活躍を通じ、花南に在籍できたこと、そして今後絶対無いであろうこの時、この祝賀会に出席できたこと、本当に嬉しい感謝量のものがありました。

余興の方も多彩で、歌や

踊り、ダンス等、次々と披露され、まばたきもせず、息をのんで見入ってしまう。平成十八年から五年間に渡る準備期間を経て、こ

花南讃歌

作詞 赤川和男
作曲 村川俊博



「花南讃歌」

作詞 赤川和男
作曲 村川俊博

一、青き空に若さあり
城はにたつわが故舎
自主の心定めんと
高女われしなやかに
歴史百年今ここに
歴史百年今ここに

二、青き山をみ光あり
時鐘は響くわが故舎
自律の気概充めんと
足ふわれらもこやかに
歴史百年今ここに
歴史百年今ここに

三、垂り流の波に情あり
万了目標のわが故舎
其学の究めんと
花南われらさわやかに
手を掲げて進みゆく
歴史百年今ここに
歴史百年今ここに

母校だより

平成23年度
進路合格状況

1 進学受験状況

今年度も、9割近くの生徒諸君が進学を希望し、推薦入試では、国公立大学から専門学校まで、昨年をやや下回る約90名の生徒が受験に挑みました。結果は以下のとおりとなり、昨年を上回る良い結果を残すことができました。特に、国公立大学の推薦受験は、20名

が挑み、14名が合格。実国公立大学の推薦合格率は70%という極めて高い合格率でした。また、初の慶応大合格者も出しました。医学系以外の専門学校を希望する生徒は減少傾向にあります。四年制大学や短大を希望する生徒が増加傾向にあります。多くの生徒が受験先として頑張っています。この大晦日と元日を挟んだ年末年始に研修会(同窓会)でセンター試験直前模試や学習会、特別講習を企画し、

先生方の熱意のある指導によって万全のバックアップ体制を敷いています。

主な合格先

(平成23年度は1月28日現在)

国公立大学

国公立大(1) 青森県立保健大(1) 岩手大(5) 岩手県立大(4) 山形大(1) 福島大(1) 都賀文科大(1) (私立大学)

慶応義塾大(1) 岩手医科大(1) 盛岡大(3) 東北学院大(3) 富士大(2) 日本大(3) 東海大(2) 国学院大(1) 仙台大(3) 東北福祉大(1) 他

短期大学

山形県立東北女子短大(1) 岩手県立大宮古短大(1) 盛岡大短大部(1) 岩手看護短大(1) 仙台青葉学院短大(1) 実咲女子短大(1) 他

医療系専門学校

花巻看護専門学校(1) 水沢学苑看護専門学校(1) 東北メディカル学院(1) 岩手県立看護専門学校(2) 仙台ハピビリーション専門学校(2) 他

各種専門学校

専大北上保育福祉専門学校(5) 盛岡カレッジオブビジネス(2) 他

2 就職内定状況

近年の不況も関係して進学してから就職する方が有利だという思いが浸透し、ここ4年間の民間就職希望者は22名・20名・19名と減少傾向にありましたが、今年度はやや増え、28名であり、内定率は8割を超えています。これは花巻地区の高校では最も高い内定率の一つです。残り数名の生徒はこれから受験予定ですが、良い結果が期待される所です。また、本年度公務員試験では岩手県職員に1名合格しました。

高卒からの就職は、以前と違い、進学することによりかなり難しい状況です。

主な内定先

(平成23年度は1月28日現在)

イーエヌ大塚製薬株式会社(1)、岩手ホテル&リゾート(1)、トヨタ紡織東北株式会社(3)、リコー光学株式会社(1)、シチズン東北株式会社(1) 他

全国高等学校総合体育大会(インターハイ) 出場

全国高等学校総合文化祭



招致部門の分科会でまとめ役を果たしました(文芸部)

全国高総文祭3年連続出場
(劇部引続部)

1年生ながら東北大会6位入賞インターハイへ(陸上部)



13年ぶり4度目の県優勝でインターハイ出場(剣道部女子)



県高総体4年連続優勝インターハイ出場
(ソフトテニス部女子)



2度目のインターハイ団体出場
(弓道部女子)



団体+個人2名出場(体操部)

海外研修

平成23年11月30日(水)から12月7日(金)までの7日間、2学年国際科学学系33名と引率教員3名(照井、小林、山影)は、ハワイ州オアフ島へ研修旅行に行ってきた。研修校であるレイレファ高校での研修を中心に、生徒宅へのホームステイやオアフ島観光、ホノルル自主研修などを行った。

第一日は、朝7時にホノルル到着後、午前中は全員でオアフ島の観光名所を訪れました。思いのほか暑気があり肌寒い天気になど驚きましたが、展望台から望む雄大なハワイの自然は、生徒たちをただただ圧倒していました。朝食後は、一人の男子生徒さんの口をの歌は本当に素晴らしいものでした。

授業では英語の練習をしたり、ホストファミリーのために英語で自己紹介の手紙を書いたり、着々と準備を進めてきました。これからハワイの海への少しの不安と、でもやっとなホストファミリーに会えるという嬉しさと期待に胸をふくらませ、無事ホストファミリーと対面することができました。

生徒たちは心温まる歓迎を受け、お礼としてダンスと歌を披露しました。こちら日本でも忙いさな長時間を見つけないとみんなど準備してきたものです。早朝ホテル近くのビーチで朝の海向かうバスの中で朝の練習をしました。その甲斐あって、本番ではそれを披露することができました。

授業ではクリスマス用のジンジャーブレッカーを作りました。ウクレレの授業では生徒一人一人にウクレレを貸していただき、最後には全員で大合唱ができるまでになりました。ハワイ文化の授業では、ハワイ語やネイティブという植物の葉で作るレイの作り方を教わりました。あちこちで笑顔の交流が見られ、生徒の顔も輝いています。

週末はそれぞれの家庭で忘れられない思い出を作っていたとき、明けて最終日、授業ではクリスマス用のジンジャーブレッカーを作りました。お別れの時がやってきました。抱きかかえ、涙し、なかなか乗りに慣れない生徒たち、日にちに近づくにつれて五日間のこの短い期間が寂しくも楽しかったものはばかりしませんでした。旅行前はホームステイへの不安、ずっと英語で通さなければならぬというプレッシャーなどから、この研修旅行を楽しみにできないうちでいた生徒もいないわけではありませんが、でも思い切った飛び込んでいった未知の世界のその先にはこんなにも素晴らしい世界が待っていたのだということが心から実感できたのではないかと思います。そして物事に積極的に取り組む姿勢、自分からとるコミュニケーションの大切さをハワイの人々から学んだことでしょうか。

帰国後、生徒たちの中には自分の道路に前向きになつたものが増えてきました。自分はどうしたいか、今まではやっていた自分の未来が希望に満ちたものに變化してきたようです。これこそ私が生徒たちに求めていたものです。これからも勇気を出して新しいことに挑戦し、そこから得られる貴重な心の変化を感じ取って行ってほしいと願っています。最後に、この旅行を実現させるためにご協力くださったレイレファ高校の皆様、保護者の皆様、そして生徒たちに感謝申し上げます。ありがとうございました。

編集後記

同窓会員久しく待望の「創立100周年記念式典」等が、平成二十三年十月一日、市内二公園において、これまで各校のご協力を仰ぎ、極めて感念無きにも無事滞りなく挙行されましたことは、誠にこの同窓の至りでありませぬ。

翻つて各年まで前後四回に亘り企画した、「津波」は全て本慶事の云々が序章に他ならず、注事に思いを致すとき懐かしい反面、一抹の寂しさが残るや今でございませぬ。

可成り日経に属しますが、かつて本欄に100年

は「永久」であると記しました。

かの「広辞苑」に依れば「永久」とは「いつまでも限りなく続くこと」とあり、最早この域に達した母校には益々々の尊栄を心から含してやまない次第であります。

名残は尽かせぬところ、甚だ不敏乍ら、ここに自らの心情を吐露し懸筆といたします。

「見よ社報に、南高の晴れやかな、栄えあれ」今回の会報作成に当たっては、原稿をお寄せ下さいました方々、どうも有難うございました。

紙上より厚くお礼申し上げます。



授業で英語の練習をしたり、ホストファミリーのために英語で自己紹介の手紙を書いたり、着々と準備を進めてきました。これからハワイの海への少しの不安と、でもやっとなホストファミリーに会えるという嬉しさと期待に胸をふくらませ、無事ホストファミリーと対面することができました。

編集後記

編集委員長
高橋 昭三(南二)

編集委員
久保田 晴弘(南二)
橋田 やす子(南一)
藤井 邦子(南三)

同窓会事務局
小瀬川 陽子(南五)
若巻 久美子(南三)
藤田 里子(南二五)

同窓会事務局
茂川 真紀(教諭)
志尾 欣児(教諭)